

2024年5月12日（復活節第7主日・昇天後主日、B年）

牧師メッセージ

「執りなしの祈り」

（ヨハネによる福音書 17:6-19）

司祭ヨセフ太田信三

先の木曜日に昇天日を迎えました。弟子たちはエルサレムにとどまり、イエスが約束した聖霊が降るのを待っている時です。今日の福音は昇天後の弟子たちを思う、イエスによる祈りです。昇天後の弟子たちのために祈るイエス、そして聖霊降臨を待つ弟子たちの心に思いを馳せたいと思います。

ご受難の後、絶望のなかにいた弟子たちの真ん中にご復活のイエスは現れてくださいました。けれども、またイエスがいなくなってしまう。弟子たちを不安や寂しさが襲ったことと想像しますが、聖書には弟子たちの姿はそのように記されていません。弟子たちは喜んでイエスのことを証ししながら聖霊降臨の約束を待っていた、というのです。なぜ彼らは不安や落胆に支配されずにいられたのでしょうか。今日の福音に問うならば、それはイエスが彼らのことを祈り続けてくださっているからに他なりません。イエスは「今、わたしはみもとに参ります」と、ご自分の昇天を宣言しつつ、弟子たちのためにこう祈ります。「聖なる父よ、わたしに与えてくださった御名によって彼らを守ってください。わたしたちのように、彼らも一つとなるためです。」イエスは、神様どうか弟子たちを守ってください、彼らがバラバラになることがないように、と何度も執り成しの祈りをささげたのです。弟子たちはこの祈りに支えられ寂しさよりも喜びのうちにエルサレムにとどまることができたのです。祈りには力があります。ことにイエスの祈りですから、それはなおさらのことです。今日の主日で大切なことは、このイエスの執りなしによって、イエスの弟子であるわたしたちも守られているのだということ、そして一つとされているのだということをおぼろげに感じることです。わたしたちは12人の弟子たちに始まるイエスの弟子の集まりです。ですから、イエスの祈りはわたしたちにも向けられているのです。イエスはわたしたちのためにも絶えず神に執りなしの祈りをささげ、守ってくださっています。今日の主日、イエスが祈ってくださっていることをまず何より感じたいと思います。

イエスの祈り。ご自分の命をささげて神に従ったイエスの祈りを、神は必ず聞いてくださいます。そのことを証ししているのが聖霊降臨の出来事に他なりません。神はイエスの祈りを聞き、弟子たちに聖霊を降したのです。つまりイエスの執りなしの祈りは、聖霊が降されることで成就するのです。いよいよ来週、わたしたちはそのことを祝う主日、聖霊降臨日を迎えます。この一週間、わたしたちがイエスの執りなしに信頼して歩んだ弟子たちと心を合わせるができますように。わたしたちもまた、イエスの約束を信じ、その約束が実現した時である聖霊降臨日を心からの喜びをもって迎えることができますように。